

■■メールマガジン「静岡県防災」第48号■■

～ 被災地支援は職場や家族のサポートがあってこそ ～

(穴水町への対口支援が5月上旬で終了します)

静岡県と静岡県内の市町（政令市は他市町を支援）は、能登半島地震に伴い、総務省の調整による対口支援を石川県穴水町に対して行って来ましたが、5月上旬をもって終了することになりました。

今後は、数ヶ月～1年という単位による中長期派遣の職員により、復旧・復興が進められて行くこととなります。

穴水町では静岡県の3名を含む、全国各地から16名の応援職員が現地に居住しながら中長期の派遣で活動していきます。

被災地で心置きなく活動できるのは職員の動員調整、宿泊場所や移動車両の確保、派遣職員への説明等、様々な調整業務を担う後方支援職員の活動や家族の支えがあってこそです。

(派遣職員アンケート)

穴水町支援の区切りを迎えるにあたり、「り災証明書」発行のため「住家の被害認定調査」に従事した市町職員の皆さんのこえを抜粋しご紹介します。

- ・新築住宅と古くからの既存住宅における被害度合いの差から、耐震補強の大切さをより身に染みて感じました。
- ・静岡県は高い耐震化率を誇るが、まだ完了していない建物についてはぜひ耐震化を進めてもらいたい。穴水町では、木造・瓦屋根の住家がほとんどで、瓦屋根と2階の重みで1階がつぶれてしまっている住家があり恐ろしさを感じた。
- ・被災地では近隣の方が協力し合って、瓦礫の片づけや家屋内の片づけを行っていました。災害時は地元のコミュニティーが最も力強い存在だと感じました。
- ・行政がお手伝いできることには限度があります。災害発生から時間の経過につれ忘れてしまいがちですが、日頃から近所づきあいなどに気を配っていただくと心強い存在になると思います。
- ・水が出ない状況でどう生活するか想定しておいた方がよい。井戸の利用や川で洗濯をしている様子が見られた。住宅の耐震化や地震に対する備えが非常に重要である。
- ・被災者の方より、浄化槽の損壊や断水でトイレに困るという話をいただいた。ビニール袋の備蓄等、個々人でトイレの対策が必要と感じた。

次号以降でも可能な範囲で、派遣職員のこえを紹介して参ります。